

学生体験記 ～スマートクルーズアカデミーに参加して～

大阪大学法学部国際公共政策学科赤井伸郎ゼミ

松本 侑馬

神田 美香

はじめに

私たち大阪大学法学部国際公共政策学科赤井伸郎ゼミでは、毎年、赤井先生と全国クルーズ活性化会議との共同企画であるスマート・クルーズ・アカデミー^{注1}に参加しています。私たち赤井伸郎ゼミ7期生はこれまで、アカデミーとしてダイヤ・モンドプリンセス（2015年6月24日～28日・神戸、釜山）、マリナー・オブ・ザ・シーズ（2016年5月6日～10日・横浜、神戸、高知、上海）、ゲンティン・ドリーム（2017年8月4日～6日・香港）に乗船しました。これまで本アカデミーでは、大阪大学、甲南大学、嵯峨女子大学、東京工業大学、同志社大学、兵庫県立大学、創価大学といった複数の大学の学生、さらに日本各都市の港湾関係者が共にクルーズ船に乗船しています。参加大学などの大学教員を講師に迎え、クルーズ船のほかに何もない広い洋上で、お互いに膝を突き合わせ、港湾都市活性化や働き方改革といった社会課題に対してパネルディスカッションや研究発表を行っています。また、我々学生のような若年層のアカデミーへの参加を通じて、クルーズを身近に感じ、日本におけるクルーズ振興について考える機会にもなっています。

乗船前のクルーズに対するイメージ

私たちはアカデミーを通してクルーズ振興について考えてきましたが、アカデミーに参加するメンバーのほとんどは、乗船経験のない学生であり、テレビや一般的に耳にするような情報から、クルーズに対して、高級で豪華な船内での船旅を楽しむことができるというポジティブなイメージの一方、費用が高く、また、マナー等にも厳しく学生には敷居が高いのではないかというネガティブなイメージを抱いていました。

しかし、事前にクルーズ経験者の方からお話を伺い自分でも調べていく中で、多様な食事や若者でも楽しめるアクティビティなどを知ることができ、クルーズに対する期待の気持ちが高まってきました。

クルーズ船に乗ってみて

私たちは、日本発着のダイヤ・モンドプリンセス、日本発海外着のマリナー・オブ・ザ・シーズ、そして海外発着のゲンティン・ドリームの計3隻に乗船しました。以下では、クルーズに乗船して感じたことや、それぞれ発着地の違いを踏まえつつ、クルーズ船ごとの違いや乗船してみた感想を記します。

クルーズ全体の感想としては、「非日常に浸ることのできるワクワク感」、そして意外にも「お得に感じる」ということです。船という閉ざされた空間の中ですが、ダイニングやプール、クライミングなどのアクティビティ、更に毎晩行われるショーは地上にいるのと同じように感じるクオリティと規模感でした。料金に含まれているダイニングでのディナーはどれも豪勢で、普段味わえないような料理に舌鼓を打つことができます。また、無料でいつでもカフェタイムを過ごせるビュッフェエリアなどもあり、空いた時間をゆっくりと過ごすことができます。アクティビティにおいては、若者の間で最近流行しているナイトプールを気兼ねなく楽しんでみたり、ジムで汗を流して運動不足を解消してみたりと、ずっと船に乗っているということを忘れるほどアクティブに活動できました。特に私たちが感動したのはショーです。ショーでは、これも船の中とは思えないほど大きなホールを舞台に、トレーニングを積んだパフォーマーたちのハイクオリティなダンスや歌、マジックなどをゆっくりと楽しむことができました。そして何よりも、上に述べたそのほぼ全てが、乗船料金に含まれており、乗船中は無料で楽しむことができる点に、使い勝手の良さを感じました。普段の旅行では、旅先での宿泊代、往復の交通費だけでなく、現地での食事代、レジャー費などが旅行中にどんどんかさんでいきますが、クルーズではそれら全てが最初に乗船料として支払われるため、いくら船内でご飯を食べても、プールに入っても、ショーを見ても、追加でコストがかかることなく、学生のようにお金に限りがある人々にとってむしろ楽しめやすいシステムであると感じました。3回の乗船全てで、上記のような非日常感やお得感を強く感じる事ができたため、周囲の人にも是非クルーズを勧めたいと感じました。

乗船した3隻は、クラスや規模が違い、運航して



船内での様子

いる会社も違ったため、それぞれの魅力や良さがありました。更に、日本発着のものと海外発着のものでは、その客層や国籍も違うことから、面白い違いが見受けられました。日本発着でハイクラスのダイヤ・モンドプリンセスでは、その乗客も日本人が多く、年齢層も高く感じました。ダイヤ・モンドプリンセスの料理は洗練されたコース料理で、格式の高さを感じるダイニングでした。また、アクティビティを活発に行う人も多くはなく、乗客の多くが社交ダンス教室やショー、バーでゆったりと贅沢な時間を楽しんでいる印象を受けました。日本発海外着であったマリナー・オブ・ザ・シーズは、船内でキャラクターパレードが行われたり、ウェルカムパーティーで乗客とクルーがともにダンスをしたりと、ダイヤ・モンドプリンセスよりもアクティブに、またファミリーにも楽しみやすいつくりとなっているように感じました。どちらの船も日本語を話せるクルーが乗船し、船内でのサポートを行っていたので、クルーズ初心者でも安心して乗船することができたと思います。一方で、香港発着で主に中国人向けであったゲンティン・ドリームでは、高級感による非日常というよりも、週末の小旅行感覚で家族全員カジュアルにクルーズに乗れるような設計であると感じました。船内の仕様は全て中国表記が付してあり、料理も全て中華の味付けが色濃いものでした。子供向けのプレイルームやプールが充実しており、日中は子連れのファミリーがプールを楽しんでいました。また、ゲンティン・ドリームで印象的だったのは、カジノを主目的として乗船する人が非常に多かったことです。他の2隻よりもカジノブースが充実しており、昼夜を問わずカジノに打ち込めるサポート体制だったように感じました。

クルーズの将来に向けて

最後にアカデミーの重要な目的の一つである我が国におけるクルーズ振興において必要であると考えた2点について記します。



第一は、「短期間クルーズの増加」です。アカデミーの議論の中でも、クルーズ振興において「日本での長期休暇の取りづらさ」が課題として挙がっていたことから1〜2泊程度の短期間でのクルーズの普及が重要であると考えました。香港発着のクルーズでは週末の2泊でのクルーズであり多くの家族連れが乗船していたことからこの重要性がわかります。カボタージュ規制^{注2)}の関係から海外船社の参入が困難であることを伺いましたが、国内船社を中心に増加させていくことでクルーズの振興に繋がるのではないかと考えました。

第二は、「若者向けのPRの拡大」です。アカデミーの中で日本発着船と比較して海外発着船では若者層が多いと感じたことから、若者に対するPRが特に重要なのではないかと考えました。具体的には若者への発信力のあるSNS(twitter, Instagram等)を使ったクルーズ事業者側からの発信に加えて、乗客からの発信を促す施策を打ち出していくことが重要であると考えます。実際の乗客に発信してもらうことで、事業者自身が行う場合と比較して説得性が増し、また安価で広範囲への宣伝が可能になると思います。また、より若者に適したカジュアルクラスのクルーズ船の日本発着クルーズを増加させるという意味でも、若者へのPRが重視されるべきであると考えます。

最後になりますが、スマート・クルーズ・アカデミーの活動が、今後更にクルーズ振興に寄与することを願ひまして本稿を締めくくります。

注1) スマート・クルーズ・アカデミー：船上でしか味わえない、見渡す限り何も無く、それぞれが集中してやりたいことに打ち込める洋上という素晴らしい環境で、学生の論理的思考向上を促すことを目的としたアカデミー。国際関係や地域発展についての社会課題を議論し、船内・寄港地にて国際・現場感覚のより一段の向上を図る訓練の場。加えて、受講生がクルーズを体験し、若い世代からの視点で、将来のクルーズマーケットを熟成するための場とする。

注2) カボタージュ規制：外国船舶による国内沿岸輸送。船舶法第3条により外国船舶による国内輸送は原則として認められていない。